

一南漫集

六

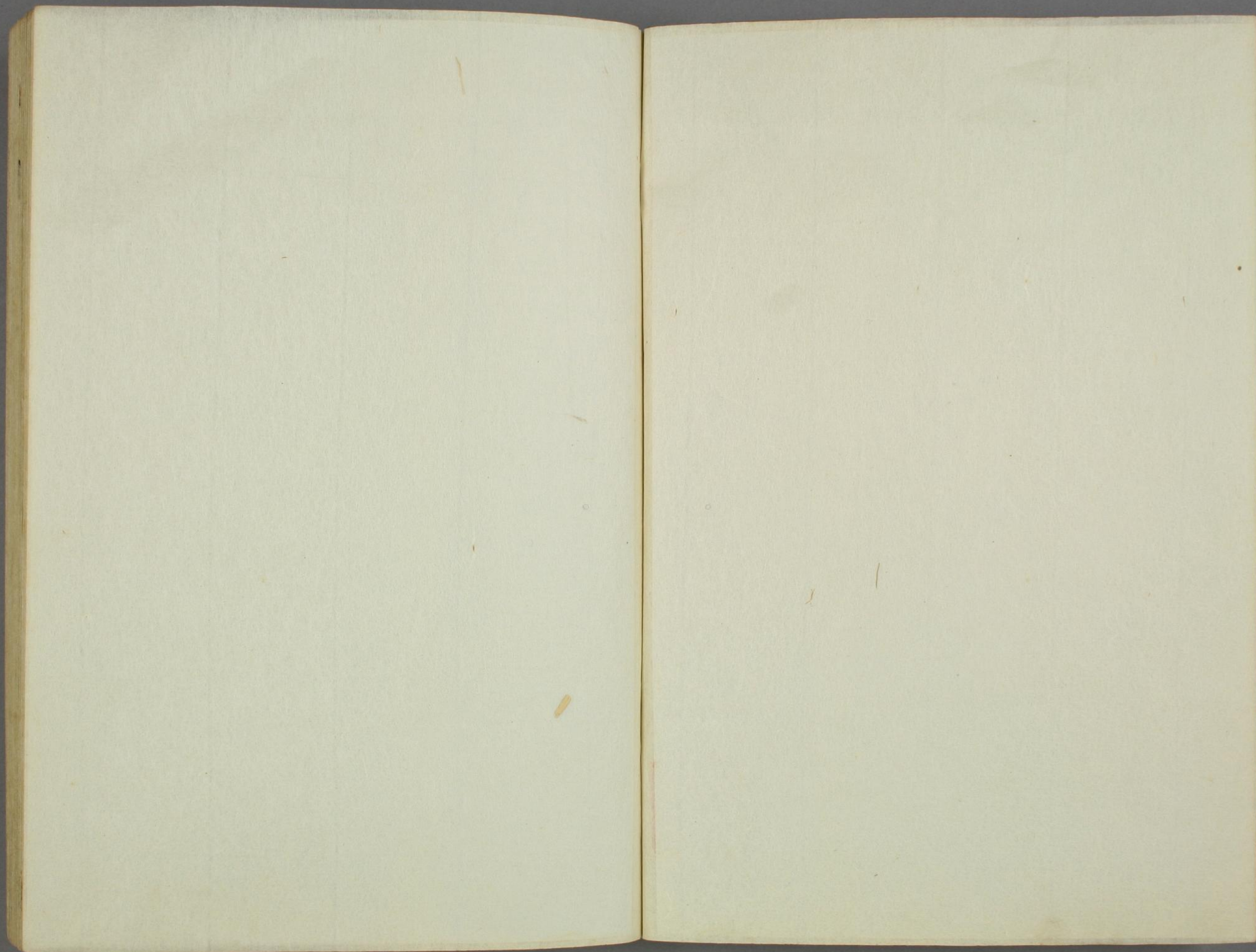
菅妻明神由来	浅間焼荒
田沼騒動	濃州覺荒
奥州雷火	信州雪荒
羽州地震	越後三條地震
京都大地震	

1 曾5
35
6

15
35
6







吾妻明神由来
附テ 淺間焼荒



家ノ位州上列ノ境ノ善所山ト云ク
 山ノ神武ノ事ノ硫黄山ノ神ノ人王早九代
 光仁帝ノ時宇實飛八年ノ筑波両江ノ神
 滝ノ曰ク山ノ位州ノ火光ノ事ノ善所ノ神
 及魚ノ依ノ山ノ火徒ノ神ト云ク山ノ
 硫黄ノ事ノ神ノ依ノ山ノ火徒ノ神ト云ク
 之類ニ入ルルノ神ノ依ノ山ノ火徒ノ神ト云ク
 江州ノ日吾ノ事ノ事ノ神ノ依ノ山ノ火徒ノ神ト云ク

死人一山の去下一角の火と有りて四十八の
池も泥より濁り焚く押せし砂より
所々を畑に成り里四方に千里早里よ及び
泥概押流しし。村致は六ヶ村と有りし
洋の油の咎と有りし事。眼赤の臣悪し
多く人民を殺し或るも一息も移せし
か介の事。金ヶ令浪子速縮結する山事
か介の事。夏と川に事。愚る事。事とも
し

浅間嶽焼荒

一 天保二年六月廿八日、浅間山に火
荒煙野を立せり。火の形、七月四日、
以て雷と云ふ。鳴響、演、丹、稚、赤、赤、
今泥け、追分、方、方、横中、
里村、黒、地、中、入、
震動、五、止、事、
中、由、石、地、中、入、
知、大、変、
右、地、
澤、村、
出、

一 七月四日 翌夜震動雷り如し次第に強き成
六日又方より一灰砂降續七日小遠方迎戸八日
案し大石空と花丈の如井田安中と誇る國
色吹雪の如降り中を流るる所相成降り
少くは雷目と二日目の如く目と百と同日夕
七時付の如河内山の方火の玉を花上り
稲光の震動候言夜に如し雷電地
言海に夜に入皆候如灰の砂吹の如り止
翌八日己卯 過漸 七時より誇る是迄先候事
三時入四時入戸位有る

一 同月六日 伏州河内山より根の方赤書事取
瀧子付の候也 右村内子人等月十七日
沙の外は皆死す 是の如く海に流る
隣村の如也

一 月七日 時より利根川上右官事取迄の大地
はら由り言候く成泥多し 概湯のどく流る
昔事取より久石村まで流る月西久保村中根の
村尾村より赤書付安中村田畑民家へくるも
赤書流る言久石村の如也
一 川原赤書村足巾村河原加村檜尾村柳尾村

一西ノ泥ノ底ニ成可キル旨澤村庸寺村
浦也

一日歌長中村村横野村河東村小戸村小戸
川高村川戸村古村川野村と河東
流去る旨浦也

一灰砂ノ入ノ文信ニ降ル由

一月歌舞子村川野村池母村中子村中流夫

一牧心ノ関所流夫役人涉流文首ニ包ク
行也も溺死波り音

一川候中昔所新川八日晩平生ノ水ニ入

増多時多哲川内ニ深ニ成ル処月九日乾面
暗く成流メ如ク多押来リ方急難事
大ニ川上ニ成ル所并家ノ流死入
牛ノ歎流事鴨委美是レム

石ノ石同流事四代友石月ニ有レ一通流也

久志岩次ノ上ノ事

先月未方ノ行州河内山辰動仕燈沙ノ降
以長放度希知去ル日折申一頁ヲ以歩程
ル利ノ同也折立時ノ鴨委美也一夜中

雷電大し鳴り翌七日昼暗く夜も如く
 降也一之夜亦大降之日八日之雨止降
 砂之厚半寸七寸余三坪二斗五升処
 一斗六升流
 降も亦一組三年砂重サ四石有昇
 田畑
 降も亦又半寸依り地物一月に埋
 ち八月雨も亦一も降り八月八
 時列根川
 右流も亦流大と云流川中一面
 堰之際
 押上り依り尚名口科名間
 去川色路
 止
 日光寺遊歩止り
 之園色川
 流
 止
 中
 止
 止

天保三年七月九日

日光山別當使左
 順次 玉村者
 馬助

道中記新録

一 日光及中幸日若間
 在年号大寺り上り
 中幸日
 東より方字權現堂川組
 中列根川
 所吹夜中
 七九の登入り降
 家為破損
 流
 中幸日
 角
 之柱
 人
 梁
 木
 友
 居
 野
 居
 戸
 板
 等
 概
 行
 勿
 恨
 也
 昔
 月
 所
 一
 麦
 葉
 等
 中

臼杵重筑桶沖之泉其流之勢一碎四入
 有之生木之根以之為人信之羽皮もす
 以之木もすこらりて相成川中其流
 間之男川一盞也却も難成流野を流
 以男十日候一向之雨降りて川之布
 之源之流之四人其増りて男女出家
 之流之流之流之流之流之流之流之流
 川之中之流之流之流之流之流之流
 右宗和仁見之流之流之流之流之流
 之流之流之流之流之流之流之流之流

以上上州流之流之流之流之流之流
 之流之流之流之流之流之流之流之流
 之流之流之流之流之流之流之流之流
 之流之流之流之流之流之流之流之流
 之流之流之流之流之流之流之流之流
 之流之流之流之流之流之流之流之流
 之流之流之流之流之流之流之流之流
 之流之流之流之流之流之流之流之流
 之流之流之流之流之流之流之流之流

日芝道中幸石
 問屋
 又九車

一 汴州沿河山六月廿八日... 荒多煙之... 大之燒光在村... 一表之書... 雷之音... 牛之教... 百之孩... 所今洋...

中仙道汴州坊之間歌

汴井澤石

右名... 汴州... 之退... 落... 水快... 汴井澤石

外に之を如く度又人落敷之少削、漸く
起上りて去りし由六右衛門娘孫下女之五人
に之を命じし夜中、其友不有急送之、
其少殺れ難く、命を乞ふ言、右衛門下少外
恨家人死、夫人難半一、
中仙左行州往之、
皆武者
追ふ者

右武右左源間山麓言、不書、
恒井澤

岩川原、之、人妻、
和云、
江、
其、
追、

四代及
遠、

之作月也若年号中一問之也如抱之
 字物多入の古六自才宗興雅成外々抱宗也
 父之及以殿方月夜入五度氣絶之川舟の
 池系長仙院薬服用外科也津師主伯齋法也
 一召八事の海の所行の曲測甲斐也
 中退不夫事の以人孩人若かの中
 相渡の府駕籠の角言渡と我大揚屋の川舟也

右穿鑿武り帟席

八月廿

牧野人偶

八月廿

柳生主膳正

右の通に 作舟知以五人海の場所
 三乃元羽是廿又日之印り之席之若事之在也
 三作舟也

八月廿

大屋遠江

八月廿

山川下総

一 天以四辰年四月二日、度以敬口嫡子山原度
字方人、病死

十渡言片

新野
塔川其後也組
佐野善八造

去月五日

敬中田泥山原、右自底為負、乱云々

之、山原、右自底、夜、五果、切取、
作片云々

右々、晚於、証是、所、之月、片、入、屋、遠、江、
中渡、所、有、以、曲、測、甲、變、与、月、片、山、川、
中總、与、勤、中、山

四月五日

天保七年十月二日

田沢之殿次

其方勤設中不三之九年大為之修造之建
叩陸重之弟皆之云云 只石 叩先代為
中達 叩陸山崎之親も方之舟計度
勞七子之四九上原居之 舟月之屋浦下
孫誠波概居急度懐一五五也

田沢就物

之方誠祖父之度次勤設中不三之九年
是之舟月原居之 舟月波概居懐一五五也
舟月之度次義 叩先代四九之義舟
叩先代之度次義之四言百し舟中の方
之の家督之方之云下並遠州相良城之
石上の元振一五五也

田沢就物

家老丸

田沢之度次勤設中不三之九年大為之修

長之達 卯辰重之末坊之末并什度
 之或乃七子之云 石上忍居云 卯辰及桃大居
 免度及慎一系之旨云 仁并ハ
 卯辰代涉取之 卯先代涉宥息之清旨云
 且一并嫡孫就師云之敬誓之方之之下並
 遠州相良之 百上先批一言再其旨云
 仁并ハ就師初年之清并家老六中令
 万路其慎法事之入一并并火之末列
 一之入之其所敬老六七一其也云云

右於卯辰書院洞田沢能登子大目并加浦

私泉ヨリ 意中列所後後ヨリ 渡之

園次免濃也

遠州相良城清光也云云 仁并ハ乃乃女子云
 渡之云云一渡也云云

或乃女子之渡之孫子也又孫後地孫孫孫孫
 弓或孫孫長柄之孫中一渡用意小之何所由
 石連之入救於女子四百産家之由何由云云

四使書

永井信藏

行書院書白紙甲斐守組

久留十九番

右遠州相良城之川渡之記

四使書

久保忠之塔

印小住組流方若狭守組

井上平之塔

右遠州相良城川渡渡之者波之使
系之記

一 遠州相良城之義和四亥年城地

仁丹田泥新物原居之度以之之城并城并
武具之之之城大城川渡之良之車武具
負救之義和之之之武具之
案之相良城附之之之之城並旨之川渡

一 右川以并城不負救之義和之之之不令從味
之有通之為城附之之並旨之川渡

一子相良城附尺通殘並由

一床子張

一合三万子

一後産張

一味噌梳指

一石川武笠尺通

一長柄

百八梳

一子漆

梳八寸

一月君朝

百八梳

一弓

百八梳之張

一証矢

子重

一教

梳四

一弓葦

梳八

一関弦

武重

一弩儀

弓

一弓草

梳八

一弦卷

百八

一矢葉

八寸

一沃炮

百八

内

二百月筒

漆形

百月筒

日

百月筒

日

百月筒

日

百月筒

日

百月筒

日

百月筒

日

百月筒

日

百月筒

日

百月筒

日

口濁

三ッ

一册乱

七

一口薬入

七

一火繩

百

一洗炮草履

七

一土箱

六

一陣具

三

一陣之敵

二

三

一小性具

七

八

一陣笠

百

三

一江戸表白浪の相也

一弓

張

一

張

一弓量

一長柄

七

一小性具

但柄毛替

一陣具

一

三

一遠州相良城附武笠

浪雲城附井上武笠

一長柄

八

一

七

一月替

七

一

七

一証文

三

一

六

一月君朝小孩 一孤夫 台之孩

一弓 羅張 一翻 四

一弓量 又 一圓張 孩

一弓草 又 一弦卷 字又

一矢管弓 三六

一溪炮 孩大挺

內

音自筒之挺 濤飛舟

下自筒之挺 〃

管筒之挺 〃

孩筒四挺 〃

字筒之挺 〃

水筒之挺

界之筒大挺

字之筒之挺

一朋訖 八 一單入 八

一火繩 孩又 一溪炮草履 武

一山笑 二天 一陣貝 三

一陣之教 三 一小性具足 孩从

一教具足 孩从 一陣笠 孩

一弓及具之組 一濤洞 三

一 横須賀城附

西尾隠波 与 西 町 之 子

- 一 長柄 羅七筋 一 自 旗 旗 丈 巾
- 一 日 習 朝 羅 之 一 弓 旗 之 張
- 一 証 矢 四 百 餘 本 一 教 四
- 一 弓 畫 四 一 閩 旗 丈 旗 之
- 一 弓 草 四 一 旗 卷 旗 丈
- 一 矢 草 等 目 之 子 向
- 一 洗 炮 旗 丈

- 一 册 乱 七 一 口 華 入 七
- 一 火 繩 四 尺 一 洗 炮 草 履 丈
- 一 土 笥 三 五 尺 一 陣 障 三
- 一 小 竹 具 是 旗 七 尺 一 教 具 是 旗 丈 旗 旗
- 一 陣 笠 六 尺 一 之 道 是 旗 丈
- 一 口 洞 三

井上武之席
 古多伯者
 西尾隠波

遠州相良城破布云 作舟の舟元毀
之義云 行舟の条人歩足出の所一云波の
委細の條の心動是事云 一云水合の

一 城附よりて殘在の床合從味増と城の毀
入氣續り流入用あり由

一 相良城の毀望之申年 正月丁丑日す
之條 二月六日と云 相良の由

一 寛政四子年四月

以年之度改換呈不肥和國為系の條下と云 望程
海の善望山と云 山尚正月十八日夜す 波鳴初
の條下進も言中の処 右山の内は浪の聲が程地處
此方より内穴の泥と夥と吹出湯煙と云
烈と云 小砂利と煙と連と吹上り二三日より浪の
岸の処右の山吹舟の勢気と和と吹下り右と云
山、地震鳴動強り、湯煙吹出

少利 是石原原中二月九日夜下山麓
震動漁民不為難妻老南燧面不戸谷下
燧下戸の然れ去月朔日夜下地震強ク涉
内中も住居建具も外平中平程
之れも亦も有し同日也是夜行旅者山麓
以て其處も亦強ク震動右
心用善次上進之 名も之れ也其為心

石原

濃州鬻荒

一寛政二年

濃州大垣村 一月去戊八月
家前多百姓行直雜穀糶妻資以成勿漏
而春々々田前野妻相渡り流地喰荒列
夏此之妻実生之食喰切り地車場所
之れ今村爲村之妻知方強作地并
鬻荒物中大夏多々喰荒計上四方
相移り一戸も難斗常々計戻少中

六月廿一日

石田宗女正

秋成以夏濃土之津那海西那自去成八月以
前多秋此有元月食荒之外百姓其
雜穀且苗代田其田方水中入食荒一
夜中其以亦番其地中、新屆兼中知方
之成麦化人多食荒百姓其近道之細
別之野麦皆之其地中夏作も行
五月植舟多其地中食荒中其人多

當り之恠り之斗其年之内消多源植舟
不其地場不其斗其右前水底之磨
田博多と食り程り其地以上八回細
食荒り其も新其依り其申達以上

七月

石平松津下

尾張殿所濃州不破那真村上
月廿八日其其得付意也一月去秋以
追々加前液夏以別多麦作

夏作亦食荒儀物も多し食城中
尾州之田後中神風津福申事可夏
比少く宛有儀夏作亦食荒儀物
是し併え事あり格別障りも二
之も亦少く事あり儀後并事一
違
也

七月

寛政二戊午

秋立本江別量歌去自冬中寒警之
以歌江波村江中付五付雨之
流中澤之新中積以雪日三月
廿日亥の刻一所上押以江波村江野村
家居押浪人并牛馬之候我長死在也

- 一 以波村潰乳 様之郎
- 一 月昂死身 様之人

右通事 府竹原番 以上

一 民死 女

拾人

一 民死 子

三

一 任節村 浅家

二

一 月 民死 男

四

一 月 民死 女

六

一 月 恒我 男

三

一 月 民死 牛

七

二月 日

相平 彈正 少 弼

奥州 雷火

一 奥州 仙臺 六月 廿 日 至 八 廿 日 解 又 雷 二 九 日
落 右 雷 火 之 中 家 作 燒 矣 又 日 僧
法 色 之 外 家 作 少 事 於 四 日 凡
口 別 各 事 一 言 一 事

羽州 地震

一 酒井 左 邊 村 六 月 廿 日 一 事

羽列在內四川於地海起自四月四日
夜卜有地震言地西裂山石泥多湧水
地崩言地卜成不致之新在通

一采在場冊後又之斬之个不之倒以所

去在後官斗川

一龜涉城以令閔席下產不之地西之斗
長又六間產新門震倒多門槽痛決
沉埃可一廣地西之西人埋去又古官之列衣
泥多湧出大居百官泥沉之公在塔大並屬
百八孩男泥之新之是之也大居切右下

公在場是

一治在愛決 或後新

一去在決 八棟

一月痛 六棟

一治人決家 或新

一月痛 百孩之新

一河在決 四百孩之新

一月痛 四百孩之新

一寺在決 二十七寺

一月痛 孩六寺

一衣冠世家

羅士家

一月痛

七家

一江流

七江

一世家

七家

一修治世家

修世家

一月痛

七家

一及公寮决

七家

一民家决

家八廿七家

一小家决

七家

一大家决

百八家

一月痛

百八家

一古所决

七家

一月痛

七家

一死人

百八家

一放死与

百八家

越後三條大地震

文政十一年五月五日於大津地震地
持揚々歌唱し心なまじりて外へ
欠けしやうりし子形奈く不三度三津
りんかうぶ歌し下成り老く救き子又
ほごまのこまひし大事出れしつゆし
お挽くあり火元にあふ燔之形も
かせしやうりし河中一角火由り
右に記す有るはつゆし

浄土のぬ家にもたつては病入痴人とも
波方あり表に坏るゝ要よりもせ直浄
木代に事なる四坊所よりとらふも
とらふゝとてあや 中堂に人ありて死入
とらふゝとてあや 四又人持揚て一度は浄
之母ありて火に夜中堂殿中屋不
一不焼出中塚中四一神ものかまふ
流及具あり不及りてゝ一記録も場不
能く不あり命がやありえとらふ
境内小家二之木浄るゝとて事なるも

寺方娘の子家よとてあや 兼り人とも
生るゝ火に焼け 急死を裏に寺あり
四のきと一幸消し人との月欠出る
又人急死又一幸りり 人昂死又
浄土に悟ぬるゝ又一とて浄土に焼悟我
が 浄土宗の寺日蓮宗浄土の寺
真言宗六ヶ寺は浄土の寺
とらふ 住幸り出のゝ丸焼中寺小路
中折在る者物持出 市宛中一及民死底
人数をさすゝとて火獄の事 骨あり

一向不方試て家ト下ニす〜申も其ノ
か出妻う出親が出ぬ〜の家門下ニす〜
さしび居るにほ〜かに獄〜も其ノ
獲ま〜か〜兼ら〜ら火を〜放せ捨海
乞〜し〜し〜中〜生る〜焼死〜
百人よお〜ひら中〜扱〜る名八人
二階下居る家津も放を出〜み人
血根に突ぬ〜し〜流び流る流る人
足と〜〜佛々〜〜と〜
ぬ〜ら火〜り〜且生死〜あ〜服治屋の妻

〜其ノ主色〜川せ兼
〜ら火獄〜由〜書〜也の教〜是
〜願の願乞〜一決進を〜
〜〜〜子供兩人
家〜角かけ〜
〜び居る〜も浮き家放を〜
親と家根を〜打を〜
〜月裏表を〜火を〜見教〜
もカ〜丈暁〜足を〜
〜流〜服を〜教〜

とよま〜一帯〜左様〜居〜を〜
火葬おさ〜十日斗〜内〜所中死人の
自〜〜〜〜〜怪象〜上死〜
一不〜火葬〜汝〜大少首〜
首也〜是不〜に首〜祝家〜
か〜子〜居親〜入〜に焼死に
可〜急影〜津〜眼者〜地獄の首〜
身〜毛〜〜〜事〜内〜地〜
四陽方〜津〜翌日〜申〜事〜

地震と年月言は付〜ゆ〜
津〜お〜居〜に相成人氣も〜
事〜

〇既〜人吊死百七七人焼死七人
案

見附所之條り〜事〜

蕪所が〜〜〜
〜板〜〜
死矢人〜村〜数不知

地蔵堂所が〜新深水原志〜入泉

新浦がしの事この不雅

二條焼場所と合致快角と不及中軍旅

とせし兼以て家産の事とちりて中軍

不中志多しかしも指出るも以て其の

事と小屋掛ケも中軍兼以てのこらる事

なり百あり

八情小路も不効の事内外の事

と云ふ實生及家内之人家下なる事

中兼焼死の事と此の事この府に

日人も三日長岡也之の條に忌み

権子の府

右大變、次中、其増も思入の覽

中一の遠索一三下の事

子三月

我後之幸所

誠中屋不之塔

右内後豊右の條に我後國之條所大變

大變右の條に居し人の中軍の事

爰に記す中江戶屋及山王堀池の條

隅の月標を唱す

○京都大地震

七月十日

之深箇之序

修為城之塔

年人...

於以折角秋是山凌之成之存古存當月
二日夕七時過京地大震之使震小子庭出
象教之德舟一渡之去と好之山居之

づちとと下とと 地と地 竹事とと存月
大申とといへ 柱と見ふとと大とと大とと
泣けり曲りいけり 斗小天井落迹出とと
大小とと一層ととありとと 大小とと抱とと出
了り処足踏る 一層とと尻隙とと落とと出
或間とと鴨居小破凡とと度とと度とと系とと
下り処導とと風とととととととととととと
垣根倒れとと舟とととととととととととと
岸の尾とと除とととととととととととと
大小亦とと環居とととととととととととと

中城四方の屋居の四隅東南西南小曲り
とと度とと角とと沙とと度とと小層とと漢とととととととと
とと雲とととととととととととととととと
とととととととととととととととととととととと
角とと沙とと震とと度とと月とと堀とと隙とととととととととと
口とと流とととととととととととととととととととととと
槽とと根とととととととととととととととととととととと
中とと切とととととととととととととととととととととと
口とと居とととととととととととととととととととととと
とととととととととととととととととととととととと
とととととととととととととととととととととととと

東門の麓より多門大坂に越え眞是下槽
 半分の廊下橋より四式階に中分の移智蔵
 之没沙委日之久混雜に没の稲より曲橋より
 小屋三度、決同の四人程の如く一掃り多
 快家も多し、流水の口、清酒蔵人破稲より
 西に倒れ、嶽より多右形、小屋の如く
 石燈籠より、東の角、小屋の倒れ、
 四角の如く、小屋の如く、之の難より、井の
 四番の角、芝山の如く、角の如く、流の如く、
 小屋の如く、丁の如く、の如く、泉の如く、流の如く、
 四番の如く、

多文小屋、其も換、流、大、日、と、入、丈、川、移
 多、以、浦、を、糟、屋、に、月、在、る、橋、を、女、橋、に
 秋、を、芝、山、氏、に、小、屋、に、は、れ、た、は、之、に、是
 同、夜、四、五、度、迄、無、事、動、静、に、一、世、心、を、流、す、存
 あり、流、の、後、江、度、も、平、洲、に、け、た、又、変、と、是、君、に
 心、を、一、つ、り、し、心、永、残、り、と、入、ん、た、心、を、流、し
 秋、を、月、に、も、も、心、を、不、下、り、恨、に
 流、の、後、心、を、流、す、も、恨、我、も、之、に、心、を、
 流、の、後、心、を、流、す、中、分、之、心、を、流、す、心、を、
 流、の、後、心、を、流、す、心、を、流、す、心、を、流、す、

洪平斗一節成

一同心方之白洲震洪平斗一節成
其外五日後不云我之亦大破五成丈
少之免震強三日今以此事一河

一河平河一之暮平河平河
一河平河一之暮平河平河
一河平河一之暮平河平河
一河平河一之暮平河平河
一河平河一之暮平河平河

大風西平一之暮平河平河
山唱一之暮平河平河
今我角倉平河平河
平河一之暮平河平河
平河一之暮平河平河
平河一之暮平河平河
平河一之暮平河平河
平河一之暮平河平河
平河一之暮平河平河
平河一之暮平河平河

人造の修復不言の用行方の中事
 ありし市の中杯決暫死に怪
 ありとあり少く歌中成り怪我人も
 ありしとあり至事ありとありしとありし
 諸の友の家より一宅と出通し一流居
 物も外より凌ぐ江合火事同治事
 波所にも四筑歩使に人造の破損
 禁裏常涉殿案況の破損の修復
 一ありし海にありしとありしとありし
 一ありし一度にありしとありしとありし

近岸宅夫の波所の用向の調
 弟師の調の上

七月八日
 吟響

九令各度

程以折角秋氣凌りしとありしとありし
 海より名にありしとありしとありし
 予の部地より少く斗に他處よりありし
 野田橋の修復の地に浩切石より拾別

と善くも〜一換不も〜一音尸賦、南郊とも
唯、自付方、風吹、虫、凡、出、処、若、校、園、在、不、亦
後、八、分、村、程、津、浪、方、一、海、成、書、上、テ、以、流、天、津、
凡、中、年、の、善、く、元、苗、年、を、言、一、十、八、里、備、の、事、在、
一、流、日、中、も、実、吾、方、一、下、の、其、以、一、定、の、別、命、之、
善、く、推、察、汝、の、追、答、之、二、日、の、後、復、不、少、復、答、之、
と、一、と、一、正、在、出、一、下、の、一、存、の、処、門、一、が、一、一、白、流、
外、中、也、之、打、流、方、漸、出、の、江、流、津、未、代、津、少、の、亦、亦、
与、殿、下、体、入、の、員、之、有、一、六、一、一、之、教、之、四、一、
并、止、一、二、言、一、向、老、一、不、一、案、程、一、好、あ、事、一、
一、

